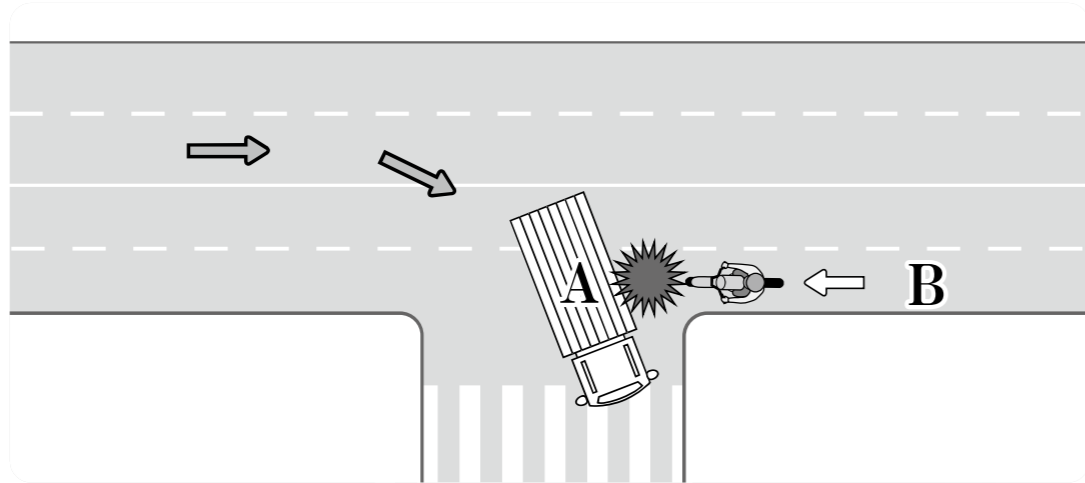


職場における交通安全指導

Part 126

交差点で右折した際、対向直進中の二輪車と衝突



事故の概要

●事故の当事者

当事者A (中型貨物車) : 40歳代、男性

当事者B (二輪車) : 20歳代、男性

●被害状況

A : 左側アルミパネル破損

B : 頭部骨折、外傷性クモ膜下出血
二輪車大破

●道路状況

片側二車線の信号機のない丁字路交差点

事故状況

Aは、トラックの乗務歴が25年のベテランで、主に配送センターからスーパー等に食品を配送する業務を担当していた。

事故当日は、夜間の配送を行っていて、配送センターで荷物を積み込み、担当区域のスーパー等に順次配送をしていた。

次の配送先への納品予定は、午後8時だったが、

配送ルートの道路が渋滞していたため、納品先付近の丁字路交差点に着いた時には、既に30分以上の遅れが出てしまっていた。

Aは、早く納品先に入ろうと、対向車線を走ってくるBを確認していたが、遠くに見えたので、「先に右折できるだろう。」と思い込み、自車を発進させた。

右折途中、左側面に衝突音と衝撃を受けたので慌てて車を停止させ、車から降りて確認すると、自車の左側に大破した二輪車が横倒しになっており、少し離れた場所にはBが頭から血を流し仰向けの状態で倒れていた。

事故の原因

今回の事故の原因は、Aが納品時間に遅れていた焦りから、Bの存在は確認していたものの、遠くにいるものと判断して右折したことです。

一方Bについても、事故発生場所が市街地の片

側二車線道路で、見通しの良い交差点であったにもかかわらず、対向から右折の合図を出しているトラックの存在を確認できていたはずですが、減速することなく交差点内に進入したことも事故の原因の一つとなります。

二輪車の特性

二輪車の特性として次の点があげられます。

1. 車体が小さいため距離感も速度感も把握しにくく、交差点に接近していても「まだ間に合う」と判断しがちです。
2. 進路変更や追い越しなど運転の変化が多く機動性に富み、運転者の微妙な体重移動でも進路を変えることができ、進路変更や追い越しなど縦横無尽に走行する。
3. 天候に左右されやすく、バランス重視の乗り物で、少しの接触や反動でもバランスを崩して転倒しやすい。

安全指導

1. 対向直進の二輪車を認めた際

距離・速度を自分本位に考えて過小判断することなく、二輪車の特性を理解してその動向をしっかりと確認するなど、性急な判断や行動を慎みましょう。

2. 目視による安全確認の徹底

交差点を右折する時は、対向直進車等の動向に注意するとともに、交差点出口の横断歩道の歩行者にも留意しましょう。

3. 危険を予測した運転

交差点内で発生する事故形態の中では、右直事故が大半を占めており、特に直進二輪車との衝突事故が最も多く、二輪車の速度が速くなれば、

それだけ事故発生の頻度が高くなることを意識しましょう。

危険予測の必要性

今回の事故の様に、交差点において、対向から接近する二輪車を確認しているにもかかわらず、遠くに見えたことで目測距離を誤り、曖昧な判断で右折したり、夜間走行で視界が暗く、正確な距離間隔の判別ができなかったなど、交通事故の多くは、ドライバーのちょっとした不注意や見落しによって発生しています。

交差点は「車・人」が混在する場所で、見えない危険が予測されます。

確実な安全確認を行う方法として、運転中に自らの声を出して行う「コメンタリー（呼称）運転」を実践することも大切です。

渋滞の切れ目を右折するときなどは、対向車の左側方の陰から走行してくる二輪車に注意し、「二輪車注意」・「二輪車停止」などと声を出して、二輪車の有無をしっかりと確認しましょう。

見るべき対象を早めに発見し、その対象に対して「危なくないだろう」「行けるだろう」という考えを排除して「危ないかもしれない」「行けないかもしれない」という危険を予測した運転を心がけましょう。

